

変える先に徴兵制 それはなりません

ほくは、昭和七年（一九三二年）生まれ。日本が軍国主義下で、戦争へとまっしぐらに進んだときに、子ども時代を過ごした世代です。自由を奪われ、空襲など戦争の悲惨さを体験したほくからすれば、いまの時代、軍靴が聞こ



作曲家 小林 亜星^{さん}

いま言いたい

教育基本法

こぼやし・あせい 一九五五年、慶応義塾大学経済学部卒業。CM、ドラマ音楽、歌謡曲、ポップス、アニメなどの音楽を作曲。作詞・作曲、タレントの両面で活躍。

えてくる感じなんだよ。

戦争というのは、退廃した時代が続いたあと、あっといいう間にやってくる。教育基本法を変えて、目指す先は徴兵制なんです。そうしてはならないと、いま、はっきりといわなければだめです。

戦前・戦中、戦争を支えるための軍国主義教育がやられました。戦後、私たちの世代が得た憲法と教育基本法こそが、平和と自由を守ってきたんです。すばらしい六十年だったと思いますね。

「美しい国」なんていいま

すが、何が美しいかわかりません。戦争につきすんだ日本の歴史を教えないというよくな動きや、なかには「原爆を持つ」などいいたす人まで出てきています。恐ろしいことです。

「愛国心」は、無理やり強制するものではありません。自然とわき出るものなんです。心を法律で縛り、自由を奪い、強制するというのは、一番やってはいけないことです。そんなことは、ほんとの情操教育なんて、できないですよ。「いい学校」に入るためのだけの競争の教育は、とても心配です。

「いまの若者はたるんでいるから一度、軍隊に入れろ」という人がいます。そう思いなくなるようなことは、確かにあるかもしれない。だからといって強制はよくない。そうやって徴兵制につながっていくんです。

教育基本法は、変えてはいけません。国民的な一大運動が求められていると思います。

聞き手 中東久直